

平成23年度 第4回「学校評価」アンケート結果

H.24.4.19.

対 象

本校専任・嘱託教員全員 49名

今年度の重点テーマ

- 【学校運営】 地域社会から信頼される学校運営
- 【教育内容】 生徒実力の確実なレベルアップ
- 【生徒指導・支援】 懇切ていねいな指導
- 【教員研修・資質向上】 教職員の資質向上による教育の充実

評価方法

4段階で評価

- A：よくあてはまる B：ややあてはまる
C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない

分 析

A・Bを肯定的回答、C・Dを否定的回答とし割合を出し、本校の学校評価とします。アンケート結果を細かい数値ではなく、「校長による分析」という形で、下記のように公表します。この結果を設置者（理事長）に報告します。また、教職員全員で共有し今後の指導に生かし、よりよい学校作りに生かしていきます。

■ 学校運営

私学の独自性

* 建学の精神（教育目標）について

（設問）建学の精神（教育目標）が教職員、生徒、保護者など、学校関係者によく浸透している。

（所見）63%が肯定的見解を示している。ある程度、教職員、生徒、保護者の間に教育目標が浸透してきたと考えられ、更に努力する必要がある。

[47%→65%→66%→63%]

* 愛校心について

（設問）在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。

（所見）37%の否定的意見があることから、本校在学学生・卒業生の愛校心を高める努力が求められる。

また、学校の社会的評価を上げる必要があることは言うまでもない。

[49%→66%→68%→63%]

教育課程

* 学習指導要領の対応状況

(設問) 教育課程は学習指導要領に沿っている。

(所見) 96%と非常に高い肯定率。本校では教育課程は学習指導要領に沿って行われている。

[92%→88%→89%→96%]

* 教育計画について

(設問) 年間を通じた教育計画を各教科別に立てている。

(所見) 本校はシラバスを作成していることから、各教科別に年間を通じた教育計画がしっかりと立てられている。

[98%→92%→92%→96%]

教職員連携

* 教員・教科間連携状況

(設問) 教員間・教科間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。

(所見) 35%の否定的見解があることは、重く受け止めねばならない。教員間・教科間の信頼関係を、より高める必要がある。

[71%→71%→72%→65%]

* 教員と事務職員の連携状況

(設問) 教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解、連携はとれている。

(所見) 70%の肯定的見解から、教員と事務職員の連携状況はある程度取れていると考えられる。今後、更に緊密な連携が求められる。

[59%→63%→49%→70%]

* 会議の有効性

(設問) 教職員会議をはじめ各種会議が、有効かつ効率的に機能している。

(所見) 45%の否定的見解は高い。より会議の有効化・効率化を高める必要がある。

[63%→71%→70%→55%]

財務関係

* 財務に関する意識

(設問) 学校の経営指標と財務状況について理解している。

(所見) 70%が否定的見解を示していることから、学校の経営指標と財務状況について理解している割合が非常に低い。更なる周知が求められる。

[41%→46%→36%→30%]

* 評議員・理事会機能について

(設問) 評議員会、理事会の役割や機能について理解している。

(所見) 82%が否定的見解を示していることから、評議員会、理事会の役割や機能について理解しているとは言い難い。

[30%→31%→23%→18%]

情報公開

* ホームページの活用状況

(設問) 学校ホームページで可能な範囲の情報公開をしている。

(所見) 69%の肯定的見解は、ホームページのリニューアルに伴うものと考えられるが、今後更なる情報発信が求められる。

[65%→56%→51%→69%]

* 授業公開状況

(設問) 保護者などへ授業を公開している。

(所見) 本校では保護者会総会において、また、中学校対象見学懇談会において授業を公開している。80%という比較的高い肯定率である。

[84%→73%→74%→80%]

危機管理

* 役割分担について

(設問) 事故、事件、災害時に対処する役割分担が明確にされている。

(所見) 危機管理マニュアルにより役割分担を決めているため、73%と比較的高い肯定率である。しかし、現実の問題が起こったとき、マニュアル通りに行くかは大いに不安がある。問題事象発生時に、慌てず落ち着いて対処出来るように、教職員全員の意識を高める必要がある。

[86%→77%→70%→73%]

* 危機管理対応状況

(設問) 危機管理マニュアル、警察、消防との連携、訓練など学校の安全対策は十分とられている。

(所見) 危機管理マニュアルの作成と、防災訓練の実施等を行っているが、東日本大震災を受け危機管理に対する意識が非常に高まっている。本校はその状況に対応しきれていない現状である。生徒の安全確保のためには不断の努力が求められる。

[84%→83%→79%→60%]

開かれた学校づくり

* 地域交流について

(設問) 地域や地域住民との交流ができています。

(所見) 79%と、比較的高い肯定率である。管理職・生徒指導部長を中心に、五校連絡会や泉ヶ丘東

中学校区青少年健全育成協議会等への参加を積極的に行っているが、更に地域との絆を強めるように努力して行きたい。

[67%→73%→77%→79%]

■ 教育内容

情報教育

* 情報能力育成

(設問) 生徒の情報活用能力の育成を図っている。

(所見) 72%の肯定的見解から、一定の評価は出来る。情報活用能力は現代において大変重要なスキルであるので、その育成には更なる努力が求められる。

[67%→65%→68%→72%]

* 情報モラル指導

(設問) 情報の発信に伴う責任など情報のモラル面の教育に十分取り組んでいる。

(所見) 42%の否定的見解から、情報のモラル面の教育は十分とは言えない。情報能力育成の項目と共に、現在の情報化社会の急速な進展を考えたとき、情報能力育成とともに情報モラル指導は、学校として今後更に力を注いで行かなければならない分野だと考えられる。

[59%→67%→60%→58%]

人権教育

* 研究体制

(設問) 人権尊重に関するさまざまな課題や指導方法を、教員が研究する体制がある。

(所見) 51%の否定的見解から、本校の研究体制が不十分であることが伺われる。

[41%→50%→40%→49%]

* 教育体制

(設問) 人権尊重の教育において、さまざまな学習方法で、意識を高める教育を行っている。

(所見) 57%の否定的見解から、本校の人権尊重の教育体制が不十分であることが伺われる。研究体制とともに否定的見解が高い数値を示しているのは問題だと考えられる。様々な分野にまたがる大事な問題だけに、研究・教育体制ともに本校でのあり方を見直して行く必要がある。

[49%→54%→46%→43%]

環境教育

* 環境問題意識向上

(設問) ゴミ、リサイクル、省エネなど身近な問題から環境への関心を高める教育をしている。

(所見) 53%の否定的見解から、本校の環境教育は不十分であることが言える。環境問題は時代の大きな

きなテーマだけに、生徒の環境に対する意識の向上に学校をあげて取り組んで行かなければならない。

[43%→52%→64%→47%]

* 実践的態度の育成

(設問) 生徒に清掃、校内美化に取り組ませている。また、施設・設備を大切にすることを育成している。

(所見) 43%の否定的見解から、本校の取り組みは不十分である。校内美化や施設・設備を大切にすることを、マナー教育とともに日々育んで行く必要がある。

[57%→58%→71%→57%]

健康・食育

* 健康・食に関する指導について

(設問) 健康教育、食育などにも配慮している。

(所見) 77%の否定的見解から、健康教育・食育に対して学校としての抜本的な取り組みが急がれる。

[39%→42%→34%→23%]

生徒会活動

* 生徒会活動支援状況

(設問) 生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるように学校全体で支援している。

(所見) 40%の否定的見解から、本校の生徒会活動がもっと活発になるように、学校全体で支援していく必要がある。

[59%→60%→53%→60%]

その他

* 読書推進

(設問) 図書館の利用促進など読書指導に取り組んでいる。

(所見) 51%の否定的見解から、本校の読書指導の体制が不十分であることが伺われるが、以前よりは改善されている。図書係・国語科を中心に読書の大切さ、面白さを生徒に強く訴えて行きたい。

[27%→31%→36%→49%]

(設問) 部活動は活発である。

(所見) 87%の肯定率から急落した。部活動の低迷は由々しき事態である。また、部活動の加入率が低いという現状も打破する必要がある。

[83%→77%→87%→54%]

* ボランティア

(設問) ボランティア活動は活発である。

(所見) 45%の否定的見解。本校の教育活動を見たとき、コースによる特色が色濃く出る傾向にあ

る。環境福祉コースなどでは高い数値になると思われるが、他コースや生徒会などでの取り組みも求められる。

[45%→56%→45%→55%]

* 学校行事

(設問) 体育祭、文化祭などの学校行事は活発である。

(所見) 67%の肯定率。本校での学校行事に対する取り組みを活性化する必要がある。年々割合が下がっているのは大変問題である。ただ、学園祭文化の部については、じっくりと時間をかけて取り組むという姿勢が芽生えつつある。

[80%→79%→72%→67%]

* スポーツ・芸術文化

(設問) スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。

(所見) 62%の肯定率は高いとは言えない。前項同様、年々割合が下がっているのは問題である。各コースにおけるスポーツ大会の開催、毎年計画的に行われている文化鑑賞の実施などもあるが、更に努力が求められる。

[84%→79%→75%→62%]

* 国際理解

(設問) 他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を取り入れている。

(所見) 89%の否定的見解。本校の国際理解に対する教育活動は弱い。他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に関する教育活動を取り入れていく必要がある。具体的な方策が必要である。

[37%→40%→34%→11%]

■ 生徒指導・支援

生徒指導

* 指導方針の一貫性

(設問) 生徒指導は学校の方針に従っている。

(所見) 90%と非常に高い肯定率である。[92%→96%→96%→90%]

* 生活指導について

(設問) 生徒の生活指導に組織的に対応する体制がある。

(所見) 90%の非常に高い肯定率である。本校の生徒の生活指導に組織的に対応する体制は強い。

[90%→94%→90%→90%]

* 家庭との連携状況

(設問) 生徒指導において、家庭との連携ができています。

(所見) 94%の高い肯定率である。本校は生徒指導に力を入れ、家庭との連携もしっかり出来ています。

[100%→90%→89%→94%]

生徒支援

* 学習指導について

(設問) 学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。

(所見) 73%の肯定率。学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善は不断に行われなければならない。

[77%→83%→79%→73%]

* カウンセリング体制

(設問) カウンセリングマインドを取り入れた支援体制がある。カウンセラーの活用ができています。

(所見) 65%の比較的高い肯定率。

[69%→75%→68%→65%]

* 進路指導について

(設問) 生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制がある。

(所見) 83%と高い肯定の数値が出ているが、生徒の進路保障を考えたとき、学校として不断の努力、工夫を重ねる必要がある。

[77%→81%→77%→83%]

■ 教員研修・資質向上

教員研修

* 教員の資質向上について

(設問) 教員間で授業内容を評価、意見交換などを行う機会がある。

(所見) 53%の高い否定的見解。教科会議の活性化、研究授業の企画など、教科指導の課題は大きい。

[20%→23%→28%→47%]

* 校内研修

(設問) 効果的な校内研修計画を立案し、教職員に実施している。

(所見) 46%の否定的見解。教員の資質向上を図るために、更に効果的な校内研修の立案が求められる。

[25%→48%→41%→54%]

* 初任者のサポート状況

(設問) 初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある。

(所見) 51%の高い否定的見解。昨年度から初任者研修を本校で始めて実施したが、内容の充実が求められる。教科、部、コースによるサポート体制も必要である。

[22%→33%→29%→49%]

* 校外研修

(設問) 教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている。

(所見) 56%の否定的見解。

[43%→43%→39%→44%]

* 研修成果の共有状況

(設問) 研修、研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制がある。

(所見) 77%の高い否定的見解。教科会議、コース会議、部会などにおいて、研修・研究の成果を共有する体制の確立が求められる。

[16%→19%→25%→23%]

(注) [47%→65%→66%→63%] の数字は、肯定的割合の推移を示す。